

大規模増殖場開発事業関連調査 (大間地区)

(要 約)

＊

足助 光久・沢田 満・能登谷正浩

本事業を実施した下北郡大間町、佐井村は下北半島の北西部に位置し、津軽海峡に面している。

本事業は当海域の重要な磯根資源であるコンブ・ウニの増産を目的として低利用砂礫地帯に大規模な増殖場の造成を行なったものである。事業の構想は水深15～25mの砂礫地帯に石材およびコンクリートブロックによる増殖場を造成するもので、増殖場はウニ区とコンブ区からなる。ウニ区はウニを増集、定着させて、コンブ区へのウニの侵入を防止するとともにウニの生産を図るための施設で、原則として初年度に造成し、コンブ区はコンブの生産を目的とし、2年目に造成する方式とした。

事業実施に先立ち、昭和51～52年度に事前調査が行なわれ、昭和53年度から5カ年計画で事業を実施してきたが、計画を1カ年短縮して昭和56年度で事業を完了した。この間造成事業区の状況および生産効果等について調査を実施してきた。調査結果の概要は次のとおりであるが、詳細については青水増資料S57-Na7を参照されたい。尚現地調査に際し御世話になった大間町および佐井村役場の関係各位ならびに大間町、大間町奥戸、佐井村漁業協同組合に対し、厚く御礼申し上げる。

1 造成事業区の現況

本事業は昭和53年度に着工し、昭和54年度にはNo.5、7、13の3事業区が完成し、翌55年にはNo.1、3、9、12の4事業区、そして56年度にNo.2、4、6、8、10、11、14の7事業区が完成し、合計14事業区の造成を完了した。これら造成事業区の施設については、No.13事業区のウニ区の一部が漂砂により多少埋没している外はコンクリートブロックの破損、石材の移動、埋没はほとんど見られず、施工時の状態を維持していた。

2 増殖対象生物生産状況

本事業ではコンブ(2年生)を生産対象としている為、コンブ区の完成後2年毎にコンブが生産される計画で、昭和56年度では生産初年度に当る事業区No.5、7、(12)、13からコンブおよびウニの生産が得られた。コンブの生産高は4事業区合計で984.5トン(生)、147,830千円となり、ウニは840kg(ムキ身)、8,400千円となっている。これらの生産効果を計画と比較すると、生産金額の合計では達成率が92%となりほぼ計画どおりの生産が得られた。

3 増殖場の管理状況

造成事業区の利用管理については、大間町、佐井村、および関係3漁協により「大間・佐井地区海藻団地管理運営協議会」が組織されており、潜水調査による事業区の状況把握およびそれに基づく造成漁場の利用、管理計画の作成等を行なっている。

＊ 現在 青森県漁業振興課